

---

# 手続き社会

マックス・ゼロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
手続き社会

【Nコード】  
N7223Y

【作者名】  
マックス・ゼロ

【あらすじ】  
融通のきかない現代日本を皮肉ってみました。

会社をクビになった。この社宅も週末までに引き払えと言われた。週末までだつて？あと3日しかないじゃないか！引っ越しの準備や、次のアパートを探す時間が全然ない。一応文句は言つてみたけど、取り合つてくれない。次の引っ越し先を確保しないと俺はホームレスになってしまうが、会社側はそんなことは知ったことではないらしい。不動産会社に電話してみるが審査やら何やらの手続きで最低でも1週間以上はかかるという、そりゃそうだ。

仕方がないので家財道具一式をリサイクルショップに二束三文で売り払い、自分の車に積めるだけの荷物を積み込んで、俺は社宅を後にした。

そうだ、役所に転出届を出さなくては。俺は役所に寄つて転出の手続きを取ることにした。

「えと、これお願いします」「はい、えー・・・白根さんですねえ、転出先の住所を書いてもらえませんか？」「え、えつと転出先はまだ未定なんですが。」「転出先が決まってからでないとお受けできませんねえ、決まってから手続きに来てくださあい」「あ、そうなんすか、わかりました」そんなことしらねーっつの、全くよう・・・。

役所を後にし、行くあてもないのでとりあえずカプセルホテルに泊ることにした。今後のことはここでゆっくり考えようと思う。

翌朝俺は不動産会社へ行つた。「ちわーっす、すいません、格安の物件探してるんですけどなんかいいのありませんかねえ？」「いらつしやいませ！それではこちらの用紙にご記入をお願いします」「は、はあ・・・」なんだ、いきなり話も聞かずに、、とことん事務的になつてしまったものだ、役所じゃあるまいし、民間企業はもっ

と融通を聞かせてほしいものだなあ。「はい、書けました」「ありがとうございます、それでは拝見させていただいて、え、お客様、無職なんですか・・・?」「あ、はい、そうですね」「えーとちよつと待ってももらえます?」「あ、はあ・・・」なんだんだ、扱いがさらにぞんざいになったぞ・・・。「えつとお客さんねえ、無職だとちよつと難しいんだよねえ、うちは結構柔軟に対応してるんだけど大家さんの方がねえ、やっぱどうしてもねえ・・・」「どうしてですか?別に家賃を踏み倒そうなんて気は全くないんですが」「うーん、でも収入がないでしょう無職だと」「それは、今は無いですが、貯金はありますよ、だから家賃はちゃんとお支払いできます」「貯金いくらあるの?」「えつと100万ほどあります、通帳見せますか?」「うーん、100万程度じゃちよつと無理だと思いますか?」「うねえ・・・」「100万で無理なんですか?だってこの物件なら月3万でしょ、年間でも36万じゃないですか!」「君、家借りたことないのかい?敷金礼金や管理費や駐車場代、その他もろもろ考えたら、とても無職で貯金100万程度しか持ってない人に大家さんは安心して家なんか貸せませんって」「そうですね、わかりました・・・」「俺が甘かったようだ、世間は無職には厳しいらしい。なんだつてんだ、この世の中は全部肩書がなきゃだめなのか。俺という『人間』を見てくれよな。

わかったよ、職があればいいんだろう?とりあえず職探した・・・しかし、待てよ。今の俺は住所不定じゃないか。住所がない人間が普通の会社に入れるわけではないよな。なんてこった、ひよつとして俺は負のスパイラルに入ってしまったのではないか?

職がなければ家を借りれないし、住所がなければ職にありつけない、完全に詰んでいる。

いったいいつから日本はこんな融通の利かない社会になってしまったんだ?がんじがらめの手続き社会。仕方がない、とりあえずたいした書類のいらぬ派遣会社に登録して日雇いの仕事でももらいな

がら今後のことを考えよう。

そして、月日は流れ、あつという間に半年ほどたった。派遣の仕事では、仕事があつたりなかったりで貯金もあつという間に底を尽きてきた。

携帯電話がなつた、知らない番号だ、とりあえず出てみる「はい」  
「あ、白根さんの携帯電話ですね？こちらは 市役所市民課ですが、白根さん引越しの手続き取ってませんよね？」「え、はい」  
なんだなんだ、あんたが転入先の住所が決まっていから手続きできないといったんじゃないのか・・・？「今、白根さんどちらにいらっしゃるんですか？」「えと、今はカプセルホテルに泊まっています・・・」「そちらの住所教えていただけますか？裁判所から通知が行くと思いますので」「ええっ？俺なんも悪いことしてないっすよお？」

「何おっしゃってるんですか？引越してから2週間以内に転出転入の手続きをしないといけないと法律で決まってるんですよ？」  
「いや、そんなこと言われても・・・」「簡易裁判所から罰金5万円の支払い命令が行きますので期日までに支払ってくださいね」「5万円だつてええええ？」「い、いたい俺が何をしたというのだ・・・理不尽すぎるじゃないか・・・。しかし、これを払わなかったら俺は刑務所に入れられちまう、借金してでも払うしかねえぞ・・・」

ああ、なんだかむしゃくしゃしてきた。その辺の女でもナンパして気晴らしするか・・・。

それから1ヶ月後、また役所から電話があつた。「白根さんですね？また手続きを忘れていますね」「え、まだなにかありましたか？」  
「あなた今、交際している女性がいるでしょう」「ああ、はい、それが何か？」「特定異性交際手続きを済ませてください！」「は？なんですかそれ？」「知らないんですか？新しくできた法律なんで

すよ。無用なトラブルを避けるためです。早く手続きしないと罰金が科せられますよ」「ええっ、そんな、、、」

またわけのわからない法律ができたらしい、もう罰金を払う余裕はない、早く手続きしなければ・・・。

それからまた月日が過ぎて行き、俺はどんづまりの状況にいた。貯金は底をつき、借金だけが膨らんでいった、ボロボロの中古車を住居代わりにし、もう完全なホームレス状態にまで落ちてしまった。もう駄目だ、今日食う飯さえままならない、ついにここまできてしまったのか。明日は生活保護の相談に行ってみよう。

「えっと、白根さんね、あなたこれ通りませんよ」「え、なんでですか？もう俺5日も飯食ってないんですけど、死んじやいますよこのままじゃ」「あのねえ白根さん、生活保護なんて受けれるのは老人が障害者ぐらいのもので、あなたのように若くて健康な人ならいくらでも働けるじゃないですか」「いやそれができないからここに來てるわけですよ・・・」

「じゃあ、ハローワークからの証明をもらって手続きしてください」「え？」「ハローワークから100件以上不採用をもらったことを証明する書類を添付して手続きしてください」

「え、いや俺は求人誌から申し込んでるんで、ハローワークは利用してないんです、ろくな求人ないし・・・。」「じゃあ証明するものが何も無いのですね？それでは無理ですね」

「そ、そんな・・・」この国は健康で文化的な最低限度の生活を送れる権利が国民一人一人に与えられているんじゃないのか？もうわけがわからない・・・。とにかく最後のセーフティネットも頼りにはできないということがわかったただけだった。

もう死ぬしかないか、まあどうせこの先、生きていても何もいいことなどなさそうだ。

もう楽になりたい、俺は死ぬことにした。

ビルの屋上へ向かいながら、ふと俺は気になり、役所に電話した。

「あ、すみません、自殺の手続きって必要でしたか？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7223y/>

---

手続き社会

2011年11月21日16時44分発行